

チームオレンジ ~ このまちで自分らしく生きていく ~



1. 基本情報(令和5年12月現在)

市・町名	波佐見町		
人口	高齢者人口	高齢者率	面積
14,157人	4,712人	33.2%	5.6km ²

2. チームの概要

チーム名	NPO法人オレンジの樹		
開始時期	平成29年 3月 日 ~		
実施主体	☐ 市町 ☒ 地域包括支援センター ☐ 住民・ボランティア ☐ 社会福祉協議会 ☒ その他 (NPO法人)		
チームオレンジコーディネーターの属性			
メンバー構成	主任介護支援専門員、認知症サポーター、当事者、医師、		
活動頻度	・おしゃべりカフェ『オレンジの樹』...月1回 ・居場所『雀のお宿』...毎週木曜日 ・『雀の音楽隊』...月1回金曜日		
チームオレンジの類型	☐ 第1類型 共生志向の標準タイプ ☒ 第2類型 既存拠点活用タイプ ☐ 第3類型 拠点を設置しない個別支援型タイプ ☐ その他		
チームオレンジ三つの基本について	☐ 3つの基本を満たしている ☒ 3つの基本は満たしていないものの仕組みが構築されている。		
運営財源	☒ 市町からの委託 ☒ 市町からの補助 ☒ 会費・参加費 ☐ その他 () 上記の財源 ☐ 市町一般財源 ☒ 地域支援事業交付金 ☐ その他 ()		

3. チームオレンジの設置に至ったプロセス

地域の理解の低さから、認知症になると「施設に入らねば」と言われ苦しむ当事者・家族がいる。また、介護サービスだけでは補なうのは難しく、当事者・家族だけで抱え込んでいる現状がある。自分たちもいつか認知症になるかもしれない。地域の認知症理解が広まることで、誰もが安心して暮らせるようにしたい。

4. 活動内容

- ・認知症カフェ「オレンジの樹」の運営
- ・認知症サポーター養成講座の協力
- ・徘徊模擬訓練
- ・共生型居場所「雀のお宿」
- ・当事者、家族、認知症サポーターの音楽グループ「雀の音楽隊」

5. 活動を進めて行く上で工夫したこと・配慮したこと

当事者がやってみて難しかったことでも、どうしたら無理なく楽しく参加できるかをメンバーで考え、その人なりに楽しんで参加できるように検討した。

例) 音楽隊の場面。キーボードは得意だが、指揮に合わせて弾き始めるのが難しい方→キーボードをカーテンで隠し、弾き始める直前にキーボードが見えるようにする。弾き始めの鍵盤に印をつけることで、みんなと一緒に演奏を楽しめた。

6. ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

「認知症世界の歩き方」のカードゲームを活用し、認知症当事者の感じ方を理解したうえで、サポートする側の心構えが学べるようにしたいと考えて講座を構成している。

7. 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

【効果】

昨年度の徘徊模擬訓練では、認知症当事者・家族の音楽隊が前座で演奏し、当事者の立場で認知症を啓発・発信した。安心できる居場所での活動を経て、家庭内で抱え込むのではなく地域へ向けて発信できる力が出てきている。

【課題】

8. チームのアピールポイント

主任ケアマネジャーが中心となり、当事者、家族、認知症サポーター、医療・介護関係者でNPO法人を作り、活動を広げています。認知症カフェ、音楽隊、オレンジあんしん見守り体験(徘徊模擬訓練)など、認知症の方と一緒にいろいろな活動を楽しんでいます。



9. 今後の活動について

今後は子供たちを巻き込み、全世代型の共生型居場所を推進していきたい。